

Colonel Yuri さんから石橋輝勝へのメール文 2005年5月6日付

「可視光では上辺だけしか見えないが、ミューオンでは心の奥深くまで読むことができる」
- CMC 議長

石橋輝勝様

貴兄におかれましては、市議会議員として冷静さを維持するよう努め、系統立った経験に基づく思考を維持しなければなりません。珍しい説明を検討する前に、あるいは技術的な解決策を放棄するという最悪の事態に陥る前に、まず利用できる科学的資料を最大限に精査する必要があります。貴兄はニュートリノやミューオンといった基本的な粒子が、マインドコントロールの搬送波として使用される可能性すら検討していません。

さらに貴兄は最近まったく八方塞がりの様子です。そこで、以下に挙げる、当方が最近各方面のフォーラムに投稿した内容を御精読下さい。次に、同じ国内にあるスーパーカミオカンデ・ニュートリノ検出器などを訪問し、早急に深層実験を行うことをお勧めします。また最低限でも、他のマインドコントロール被害者が行う実験に協力してください。安価で製作が簡単な泡箱実験で、ミューオン検出器の構築を試みるという方法もあります。

ご検討をお祈りします。

投稿内容は以下のウェブサイトからも閲覧できます。

<http://health.groups.yahoo.com/group/radioactivists/files/ACTA%20PSYCHOTRONICA/>

距離と時間の遅延

ファイナルカット: 100%作動

ニュートリノやミューオンなどの精神工学搬送波の移動速度は、実際は光速を超えることがないため、対象物とエミッター/検出器の距離が長くなれば、監視と干渉は困難になる。

月までの距離になると、この現象は顕著になり、月周回実験では遅延が1秒を超えている（実際には、アポロ飛行計画任務の宇宙飛行士が地球と交信する際に、1.3秒を要した）。

火星などさらに距離が長くなると、10～25分の遅延が、また冥王星の距離からでは8時間を超える遅延は確実に生じ、精神工学的脅威を克服するには十分である。

1960 年度ノーベル物理学賞受賞者 ドナルド・アーサー・グレーザー

核物理学から生物学へ

ドナルド・アーサー・グレーザー氏は、泡箱（粒子検出器）の発明に対して、1960 年度のノーベル物理学賞を受賞した。しかし 1964 年、同氏の役職に分子生物学教授が加わったのが興味深い。同氏は意外にも熱心にこの新たな分野である神経科学に取り組み、最終的に、カリフォルニア大学バークレー校大学院の物理神経生物学教授という現在の地位（1989 年以降）に至った。

米国の精神工学の研究過程の説明

米国におけるマインドコントロールとは何か

米国の精神工学は、核抑止力を完全な過去のものにした次世代の超強力兵器である。

精神工学とは何か

米国の精神工学は、ソビエト連邦との冷戦の間に展開された兵器競争の所産である。マンハッタンプロジェクトに匹敵する規模を持ち、同プロジェクトと同様に秘密裡に進められている。

精神工学は新しいクラスの兵器であり、電子戦争の域をはるかに超えている。電磁信号を監視する以外に、電子システムにも介入する。ファラデーケージやテンペストなどの古典的な電磁遮蔽は役に立たない。精神工学で使用される搬送波は、金属の層を含む建築素材、地下、水中を通過することが知られている。世界の隅々までを射程範囲とし、四六時中、止むことはない。

最も重要な点として、この新しい兵器が根本的に革新的であるとされるのは、シンプルで活発な長距離侵略的ブレインマシンインターフェースをはるかに超え、究極的には人間の乗っ取りも可能する、生物有機体、特に神経系の監視および干渉の能力が駆使されるという理由による。

米国の精神工学の背後にある原理

1. 神経活動と非生物学的電磁活動の遠隔からの監視:

高い貫通力を持つ精神工学的長距離搬送波は、粒子サイズのニュートリノまたはミューオンの光線であるが、まずターゲットのシナプスあるいは神経伝達物質に到達し、相互作用の後、記録される。このとき差分が計算される。長距離の正確なターゲット化を確実にを行うために、衛星の配列が使用され、高分解能に対応し、干渉的に作動する合成開口が生成される。精神工学的搬送波の電子操舵装置は、位相配列アンテナで使用されるものに類似する。

2. 神経コードとその他の非生物学的電磁信号の解読とコード化:
世界最速の米国軍スーパーコンピュータによってのみ実現可能。

3. 遠隔的な神経発火と非生物学的電気発射:

神経発火は熱的效果が現れた後に誘発されるが、これはニュートリノ搬送波がシナプスまたは神経伝達物質に集束されたときの、チェレンコフ効果によるものと予想される。

また推論ではあるが、ホログラフィック光ツイーザー技術による、ニュートリノ光線を使った神経伝達物質の直接の操作で説明される場合もある。

さらにミューオン崩壊の説も挙げられる。ミューオン光線が送信され、神経、電子回路、あるいは任意の物体の表面に到着すると、そのタイミングに応じて、崩壊し電荷（電子）に変化する。

ここで要求される高分解能は、衛星の配列が干渉的に機能する合成開口を通じて達成される。精神工学搬送波の電子操舵装置は、位相配列アンテナに使用されるものに類似する。また、正確な発火の維持にはガンマナイフも効果的である。

精神工学の構成要素

この技術はその性質上、複雑で発明者である米国に特異的なものである。
主に 5 つのパートから構成される。

1. アメリカ CIA。米国は精神工学技術の独占的所有者であり、唯一の使用者である。
2. 大規模処理コンピューター設備を保有する、米国の指令センターおよび処理センター。
3. 世界各国の中継衛星基地（米国、英国、カナダ、オーストラリア、EU、日本、太平洋などに立地）。
4. 地球低軌道の無数の精神工学衛星から成るネットワーク。これは他のアメリカの GPS システムと同様に、世界全体を 24 時間休みなく監視している。あらゆる種類の米軍衛星が合計 200 以上も飛んでいるため、このような極わずかな極秘の精神工学タイプの衛星を隠蔽することは容易である。高レベルの精度を維持するために、強力な位相配列アンテナタイプの検出器/エミッターが必ず装備されている。
5. ターゲット。人間、生物有機体、または電子システム。すなわち米国の政策の敵。世界的な指導者や、政治家、科学者、外交官、ジャーナリスト、セレブ、スパイなどの影響力のある人、お

よび一般市民、動物など。

精神工学的兵器の使われ方の説明

精神工学的兵器はアメリカ人の発明であるため、米国の指導者がこれまでに使用していた他の道具と同様に使用される。

歴史を振り返ると、米国の政策の重要な目標は現在もこれまでも、覇権主義的な全世界の支配を目指した残忍な帝国主義的意図を実践することであった。

10年以上にもわたる政治的、軍事的、学術的な主要な指導者の隠密の操作、洗脳、遠隔制御によるソビエト連邦の打破以降、この戦争は次に他の自由世界に向けられた。これには、早くも1975年に始まっていた、遠隔工作の利用による、集団抗議行動や社会的な意見の相違を人工的に動かす操作も含まれる。

科学者

精神工学の主導的な科学者と疑われるのは、アラン H. フレイ（フレイ A. H. とメッセンジャー R 「パルス超高周波電磁エネルギーによる人間の照明の認識」*Science* 181 号、356～8p、1973 年）、ホセ M. R. デルガド（神経科学者、1960 年代に無線周波数を使用した雄牛の遠隔制御を初めて実施）、ドナルド・アーサー・グレーザー（核物理学者・神経生物学者、泡箱検出器の発明者）。

被害者団体の役割

すべての国で一握りの個人がターゲットになっているが、彼らが周囲に訴えざるを得ないその説明は、科学的なレベルが低く、根拠に欠けるために、一般大衆を納得させられない（インプラント、マイクロ波、「加害者」、「スカラー波」、外国政府の関与、民間団体の関与、異星人、超常現象の訴えなど）。ゆえに、偽情報を広める任務や煙幕効果といった工作が可能になっている。

関連項目

エシュロン: 米国が運営する歴史上最大の世界的なスパイ電子網。

<http://www.globalsecurity.org/intell/systems/echelon.htm>

MKULTRA: 数多くの CIA 洗脳調査プログラムの 1 つ。

http://www.oh.doe.gov/ohre/roadmap/achre/chap3_4.html

COINTELPRO: 反体制政治組織の攻撃を狙った、FBI の多くのプログラムの 1 つ。

<http://www.icde.com/~paulwolf/cointelpro/cointel.htm>

関連リンク

2001年宇宙の禁止行動 (Space Preservation Act of 2001)。米国連邦議会下院の精神工学に関する公式声明。

<http://www.fas.org/sgp/congress/2001/hr2977.html>

スターゲート: CIA の数多くの遠隔視 (リモートビューイング) プログラムの 1 つ。

<http://www.fas.org/irp/program/collect/stargate.htm>

被害者の説明 (Victim's Accounts)

<http://www.mindcontrolforums.com/victim-hm.htm>

よくある質問

CIA スモークスクリーン (煙幕) の暴露

*脳インプラントの役割は何か?

インプラントは一部の被害者による作り話に過ぎず、米 CIA の精神工学技術の真の性質を隠蔽する煙幕効果を達成している。ウォルターリード陸軍研究所の Advanced Research Project Agency (ARPA: 高等研究計画局) 向けに、シャープとグローブが開発したものなど、1975 年にはすでに音声送信用のレシーバレス装置が開発されていたことは有名である。このため、遠隔から神経発火を誘発させるのに、脳インプラントを埋め込む必要性は生じない。また、インプラントそのものはモニタリングの機能も、オペレータ、すなわち数マイル離れた CIA にフィードバックを送信する機能も持たない。さらに動物、昆虫、非電子的オブジェクト、電子機器の監視や干渉をインプラントで行うことは不可能である。精神工学搬送波は、この操作を抜きに語るができない。

*精神工学搬送波が要求されるのであれば、マイクロ波を使用することはできないか?

すべての信号を遮断するファラデーケージによる簡単な遮蔽実験により、マイクロ波は搬送波ではないことが証明される。さらにマイクロ波は、地下あるいは水中の深部まで浸透することはできない。したがって最終的な分解能は低く、ニューロンの個別の区別が不可能である。

*精神工学搬送波に、無線周波数を使用することは可能ではないか?

無線周波数はマイクロ波よりも波長が長いため、さらに分解能が低くなる。またファラデーケージでも遮断できる。

*精神工学搬送波に ELF は使用できないか?

ELF は最も波長が長く、最も分解能が低い。無意味という他ない。

*赤外線など波長の短い周波数ではどうか?

赤外線は個々のニューロンのターゲット化に使用できるが、体内組織の奥深くに浸透できず、壁や建築材も当然通過できない。

*可視光や紫外線のレーザーなど、さらに波長の短い周波数ではどうか?

これらの波長は個々のニューロンを識別できる長さであるが、体内組織の奥深くに浸透できず、建物や障害物により簡単に遮断される。

*X 線やガンマ線は精神工学搬送波になり得るか?

X 線は厚い金属層で遮断される傾向にあるが、ガンマ線は中距離搬送波として検討可能である。ガンマ線はある程度の深さの土壌で遮断できる。搬送波はほとんどの場合衛星に搭載されるため、X 線もガンマ線も大気中の長距離移動で吸収される傾向にある。

*精神工学搬送波に必ず衛星が利用される理由は何か?

信号は場所も時間も問わず移動することが知られているため、これに類似した公開システムは米軍の GPS 以外にない。

*超音波は精神工学搬送波であるか?

超音波の波長では、高分解能を達成できない。単なる短距離搬送波であり、無響素材や真空により簡単に遮断される。

*ニュートリノとミューオンが精神工学搬送波になり得るのはなぜか?

いずれも 1960 年代までに、米国人により認識および取得されている。いずれも莫大な距離を移動し、建築材の層、およびかなりの深さの土壌を通過できる。その粒子は個々のシナプスあるいは神経伝達物質も区別する、極限の分解能を可能にするのに十分な大きさである。

ガンマ線の遮蔽

比較

ガンマ線の強度を 50% (1/2) 低減するとされるシールドは、1cm (0.4 インチ) の鉛、6cm (2.4 インチ) のコンクリート、9cm (3.6 インチ) の充填された泥または 150m (500 ft) の空気が使われている。

これは 3600m の泥 (鉦山実験の深度と強度に近い) に 400m 以上の金属製の鉛めっきを使用しな

ければ同じ結果が得られないことを意味する。

また 6000km の空気と同じ吸収率も示す。衛星に使用される精神工学搬送波が 100km 以上の空気（宇宙の極限に相当）を通過することを考えると、6.7m 以上の鉛遮蔽体が要求されることになる。これが地表の住居の最小限の鉛遮蔽体の値となる。

上記に基づくと、さらに効果の高い遮蔽素材を使用した場合、つまり鉛の 2 倍の密度をもつイリジウムやオスミウムなどの容積質量の高い素材を用いた場合でも、3.3m の層が必要になる。

したがって地下の複合的な遮蔽住居を設計するか、月周回飛行のような深宇宙旅行で永久の遮蔽手段を検討する以外に想像がつかない。

距離の延長による精細度の低下

月周回軌道飛行実験

器具（エミッター/検出器）の分解能には限界があり、その直接の影響は、エミッター/検出器とターゲット間の距離の延長による画像の精細度の低下という結果に現れる。

このような確かな結果を持つ素材を、遮蔽手段に代わるものとして応用できる。衛星を使ってエミッター/検出器の位相配列ネットワークを形成した場合、月周回軌道などの高度宇宙飛行により、疑いなく個人の神経伝達物質またはシナプスの精神工学ターゲット性能が低下する。

また、このような実験飛行が達成すると、中心部をターゲットとしたエミッター/検出器の配列の球状（または半球状）の形状は、完全な機能が損なわれる程度まで歪んでしまう。

X プライズ賞の受賞後、かかる月周回軌道の飛行実験は不可能ではないとされている。

ミューオン崩壊：遠隔から電荷を送る方法

電荷を神経細胞に照射した 1771 年のルイジ・ガルバーニの実験から実証されるように、神経発火という現象がある。

2 世紀後の 1970 年までに、ガルバーニと同じ実験を遠隔から行う方法が可能になっており、ここでは静電機械（スパーク発生装置）やライデン瓶ではなく、長距離搬送波の使用により、建築材や金属層、およびある程度の深さの土壌や水の通過に成功している。

現代のアメリカの世界的な長距離精神工学兵器の、創設原理となる実験である。

ミューオンの寿命は 2.20 マイクロ秒である。ミューオンは崩壊後、電子やニュートリノに変化する。

浸透性の高いミューオン光線を建物の層に通過させることが、実際に可能になることを意味する。ミューオン光線はこの後、ニューロンや電気回路、あるいは何らかの物体の表面に到達すると、タイミングに応じて崩壊し、電荷（電子）に変化する。

関連リンク:

ミューオン崩壊

<http://hyperphysics.phy-astr.gsu.edu/hbase/particles/lepton.html>

ミューオン: 新たな精神工学搬送波の可能性

ニュートリノ同様の有望な候補

新しい粒子サイズの搬送波は、現在、潜在的な精神工学搬送波として真剣に検討されている。

これまでに述べられてきたニューロンと同様に、ミューオン粒子は非常に微細で、ひじょうに高い分解能を達成する。すなわち神経伝達物質レベルの分解能である。さらに地面や金属に対して同等の透過性がある。

最後になるが、新たに任命された攻撃型原子力潜水艦 USS ジミーカーター (SSN23) は、海底ケーブルに装置を取り付け、ケーブルを通過する通信を盗聴する能力を持つことが知られている。これは精神工学技術以外に考えられない。

以下は Spacewar.com からの引用:

1960 年代後期、カリフォルニア大学バークレー校のノーベル物理学賞受賞者レイス・アルバレスは、隠れた埋葬室の調査のために、エジプトの **Chefren** 大ピラミッドの地下トンネルに、ミューオン検出器を配置したが、何も発見されなかった。

米国内では、ニューメキシコ州のロスアラモス国立研究所の科学者が、ミューオン放射線検査によるコンテナ貨物やトラック内の不法な核物質の検出の方法を開発していた。

港湾や国境に配置されていた既存の X 線装置では、壊滅的な核爆弾の製造に使用される物質、高濃縮ウランの嚴重に遮蔽された隠し場所を、迅速に検出することができない。

デュアルビーム X 線や中性子を使用した新しい走査方法は、保安要員やコンテナ内に潜む不法入国者に放射線による危険性が及ぶ可能性がある。

関連リンク:

ミュオンオポチュニスト: 天然のプローブによる見えざるものの検出
<http://www.spacewar.com/news/terrowar-051.html>

ニュートリノ検出器

1956年に実験、概念は1931年に発見

1956年にはニュートリノの検出器の実験に初めて成功しているが、その概念は1931年に発見されている。粒子加速器や原子力発電所の発明と、ほぼ同時期である。サイクロトロンは1936年に発明された。初期の大型サイクロトロンの1つベバトロン (Bevatron) は、現在も稼働中であるが、1950年に建造された。

ニュートリノ遮蔽

最初の実験

ここでニュートリノ遮蔽に関する古く興味深い話を引用する。時代は1968年にさかのぼり、ウィスコンシン大学のウーゴ・カメリニと、ノースウェスタン大学のスチュワート L. メイヤーの討論である。

高価な手段であるが、150m x 8m x 8m の83000トンの鉄に相当する巨大な鉄製の遮蔽体の使用が検討されていた。ポンド当たり7セントのコストとすると、1,160万ドルを要する。

これよりも安価な代用手段としてアースシールド (Earth Shielding) が挙げられるが、鉄遮蔽体と比較した場合の効率性は、ニュートリノのエネルギーに応じて10倍から25%と幅がある。

2つの吸収体の比率は、鉄の1.95GeV/mに対してアース(土壌)の0.45GeV/mという、概算的なエネルギー損失に依存する。このためアースシールドは、約4倍の長さが必要になる(前記の場合、600メートル以上の土壌に相当)。

この場合も、ボランティアによる鉱山深部実験の実施が強く推奨される。

関連リンク:

ニュートリノ光線と遮蔽

<http://library.fnal.gov/archive/test-tm/0000/fermilab-tm-0137.pdf>

シンプルな粒子検出器の実験

電子および非電子検出器

精神工学戦争で使用される無線周波数とマイクロ波の存在の疑惑を記録する試みは、過去においてことごとく失敗していることから、結論は明らかである。これらの実験の方法が間違っていたか、無線周波数とマイクロ波が全く存在していなかったか、のいずれかである。

ニュートリノやミューオンのような単純な粒子の性質を帯びた精神工学搬送波の場合、簡単な実験でこの仮説を確定することができる。

このような検出器を構築する図式を示した、アマチュアのウェブサイトを以下に示す。また電子ハードウェアはすぐに故障するため、霧箱を使った粒子の検出および視覚化のための、さらに性能が改善された非電子的な代替手段が真剣に検討されている。

言うまでもないが、いずれのケースも検出器は、ボックス形や球形など、人間のターゲットの頭部/身体を完全に覆う形状でなければならない。

最後に、自然の干渉（大気圏外からの天然の発生源から到着する粒子）が相当重要なレベルであれば、検出器を地下に建設する必要がある。

関連リンク:

初心者のための粒子検出器

<http://www.cosmicrays.org/>

霧箱の簡単な構築

<http://www.cosminrays.org/muon-cloud-chamber.php>

ソニー株式会社の米国特許 6,729,337

超音波による大脳皮質への感覚データの投影

人間の神経皮質上で、三次元空間がコード化された超音波パルスで着色された場合、複数の感覚

認識の遠隔からの生成が可能になる。これはソニー株式会社に付与された、2004年5月4日付けトーマス P. ドーソンの米国特許 6,729,337 で証明されている。

これまでの説明で正しく推測されているように、精神工学搬送波は実際には位相配列タイプの装置、すなわちデュアルトランスデューサ音響システムにより生成され、誘導および照準化される。このシステムは、神経皮質内の複数の感覚、すなわち視覚、聴覚、味覚、臭覚、触角の遠隔からの発生に、おそらく初めて成功している。

しかし神経皮質からのフィードバックや遠隔監視の方法については、言及されていない。

最後に、音響パルスを神経発火に誘導する正確なメカニズムに関する正確な説明は行われておらず、大脳皮質内の神経発火のタイミングの変化のみが言及されている。

超音波は長距離搬送波ではないため、壁や地中を通過しないことは確かである。

この特許が重大な発見であることは疑いの余地がない。このようなメカニズムが、ニュートリノやミュオンのような精神的な浸透搬送波を操作できるなどと、誰が推測できるだろうか？この実証実験が次の重要な段階となる。

興味深い抜粋:

本発明は、人間の神経皮質内/上に感覚データ（視覚、聴覚、味覚、臭覚、触角）を生成/投影させるための非浸潤的なシステムを配置することで、前記の障害を解消している。

このシステムを具現化したものに、一次トランスデューサと二次トランスデューサがある。一次トランスデューサ配列は、可干渉性の、あるいは可干渉性に近い信号源として機能する。二次トランスデューサ配列は、一次トランスデューサのエネルギーを成形、集約、変調させ、要求されるパターンで神経皮質に到達させる、制御可能な音波回折パターンの役目がある。二次トランスデューサは、一次配列の放出に相対して位相と振幅がシフトする、音響エネルギーを放射する。

エネルギーのパターンは、神経皮質に投影されるパターンの一つ一つが、低周波で個別にパルスを発生するように構築される。このシステムでは、一次および二次トランスデューサの配列要素から放射されるエネルギーの位相差を制御する方法で、低周波パルスを生成する。パルス超音波信号により、大脳皮質内の神経のタイミングが変更される。

関連リンク:

ソニー株式会社の米国特許 6,729,337

[http://patft.uspto.gov/netacgi/nph-Parser?](http://patft.uspto.gov/netacgi/nph-Parser?Sect1=PTO1&Sect2=HITOFF&d=PALL&p=1&u=/netahtml/srchnum.htm&r=1&f=G&1=50&sl=6,729,337)

[Sect1=PTO1&Sect2=HITOFF&d=PALL&p=1&u=/netahtml/srchnum.htm&r=1&f=G&1=50&sl=6,729,337](http://patft.uspto.gov/netacgi/nph-Parser?Sect1=PTO1&Sect2=HITOFF&d=PALL&p=1&u=/netahtml/srchnum.htm&r=1&f=G&1=50&sl=6,729,337)

ゲイ爆弾

CIA のマインドコントロール戦争のための新たな煙幕

ゲイ爆弾は、米陸軍の非殺傷化学生物兵器調査プログラムとされる情報の、西側メディアに意図的に漏らされた最新の報告書である。今回も、CIA の精神工学戦争の事実を隠蔽するための、CIA による典型的な偽情報の様相を帯びている。

この報告書を注意しながら読み進めると、精神工学兵器の使用のみを起因とする、正しく文書化された特徴のある身体の慢性的な病に触れずにはいられないであろう。

体臭

体臭の遠隔工作は、ホルモンおよび消化器系の遠隔からの乗っ取りの所産とされている。数多く報告されている別の病である糖尿病も、当然この目的の一因となり得る。

性的行動の操作

さらに何 10 年にもわたり、ターゲット化された個人から頻繁に報告される性的志向の操作も、米国の戦争調査プログラムの公開により初めて立証されている。人工的な同性愛、小児愛、淫乱、その他の異常な脅迫行動の遠隔からの誘発は、数か月、数年に及ぶ、特に REM 睡眠期間中の、鮮明な夢の反復的なダウンロード、睡眠パターンの系統的な破壊に、神経系および性器の専用領域の遠隔からの刺激を組み合わせることで実際に可能になる。遠隔からの刺激も、パブロフの条件付けの目的を達成するための視覚的シーケンスを使って、頻繁に報道されている。

昆虫と動物の戦争

さらに、嫌がらせや資質の破壊、痛みを伴った恐ろしい死をもたらす手段として、暴れる蟻や致死力のあるハエの群れを使ってペットの動物に肉に飢えた蛆虫を産みつけさせるなどの、遠隔から乗っ取った昆虫を利用する方法も、初めて一般に公開されている。

ゲイ爆弾の現実性

上記の内容はすべて、疑惑が持たれているような「非殺傷的」なものではなく、アメリカの CIA

が厳密に隠すわけでもなく現在も全世界で継続中の、無知な一般市民を照準にしたテロ戦争の道具である。

出典

マイケル・スミス「ゲイ爆弾」電信文、2005年1月15日

[http://www.telegraph.co.uk/news/main.jhtml?](http://www.telegraph.co.uk/news/main.jhtml?%ml=/news/2005/01/15/wlove15.xml&sSheet=/news/2005/01/15/ixnewstop.html)

[%ml=/news/2005/01/15/wlove15.xml&sSheet=/news/2005/01/15/ixnewstop.html](http://www.telegraph.co.uk/news/main.jhtml?%ml=/news/2005/01/15/wlove15.xml&sSheet=/news/2005/01/15/ixnewstop.html)

世界で最も深い水中トンネル

地下 264 メートルで

深海実験や深部鉱山実験よりも遥かに簡単な、これらの 2 つを合わせたような、世界で最も深い水中トンネルが、ノルウェーのセルトレンデラグ県の地下 264m に掘られたヒトラ (Hitra) トンネルである。

チェレンコフ効果による熱的効果

宇宙線により遠隔から誘発された神経発火

アポロ計画月面飛行任務の宇宙飛行士は、閃光を見たと報告している。

これは現在、チェレンコフ効果により説明される。チェレンコフ放射 (Cherenkov は Cerenkov と綴る) は、荷電粒子が光速を上回る速度で媒体内の絶縁体を通過するときに放射される電磁放射である。この場合、宇宙線が宇宙飛行士の眼球の液体を通過するときに、青い閃光を誘発させる。

より一般的に述べると、ニューロンあるいはシナプス内部で起こるチェレンコフ効果は、熱効果を誘発させ、最終的に神経発火を引き起こすのに十分な光子を発生させると推測できる。この仮説が正しいければ、地面および金属を浸透する能力を持つ精神工学搬送波 (ファラデーケージなど) に、宇宙線、ニュートリノ、ミューオンなどを含めることができる。

毎秒 50,000 個を超えるニュートリノの人工的な生成が可能であることを注意する。

位相配列アンテナ型エミッター/検出器を通じた三次元熱容量

遠隔精神工学兵器の背景にある原理

以下は遠隔精神工学兵器の背景にある原理のモデルである。

「ニューロンまたはシナプスに熱的効果がもたらされると、神経発火が起こる。人体サイズのデジタルコード化された三次元熱容量は、位相配列アンテナ型のエミッター/検出器、すなわちニュートリノやミュオンなどの高解像度の精神工学搬送波を電子的に操作した光線を網目状に張り巡らして着色できる。」

実際には電波やマイクロ波は解像度が低すぎ、個人のニューロンをターゲット化することはできない。ここでは、ニューロンあるいはシナプスの大きさよりも数倍も短い波長の、精神工学搬送波を検証している。さらに、電波はファラデーケージを通過できず、またニュートリノやミュオンのように地下深く浸透することができない。

最後に、ここが最も重要な点であるが、2004年11月発行の雑誌「Discover」で報告されているように、熱的効果による神経発火の誘発の仮定が、赤外線を使った実験により確証された。

ウェスタンディープ鉱山

地下 3,777 メートルで

精神工学信号搬送波の地下浸透特性を探る場合、深海実験を遥かに凌ぐ。アングロゴールド社のウェスタンディープレベル (Western Deep Levels) は、南アフリカ、ヨハネスブルクの西に位置する世界で最も深い地下 3,777 メートル (12,300 フィート) の鉱山である。

地下 3.7km の温度は、うだるような 60°C の暑さであるが、圧力によっても別の健康問題が生じる。巨大な水冷装置が空気の冷却に使用され、湿度は 100% 近くになる。

人間の精神工学検出器として活動できるボランティア要員を、早期に必要としている。

世界のニュートリノ検出器

必ず訪れるべき場所

ニュートリノ検出器は、地球の地表に到達する宇宙線ミュオンの強力な衝撃から身を守るために、地底深くに埋蔵されているため、地下遮蔽実験を行う場合、このような施設を訪問するのが適切である。

研究センターを以下に挙げる。最寄りの場所を選択すること。

*新設されたサドベリー (Sudbury) ニュートリノ観測所 (SNO) は、カナダ、オンタリオ州のサドベリーに立地し、ニッケル鉱山の約 2km の地底にある。

<http://www.sno.phy.queensu.ca/>

*ブルックヘブン (Brookhaven) 国立研究所は、サウスダコタ州リードのホームステーク金山の 1.6km の地下に、ニュートリノ検出器を建造した。

*スーパーカミオカンデニュートリノ検出器は、日本の池の山登山口内部、神岡鉱業株式会社が操業する亜鉛鉱山の約 1,000 メートル地下に配置されている。

<http://www-sk.icrr.u-tokyo.ac.jp/doc/sk/>

*INR バクサン (Baksan) ニュートリノ観測所 (BNO) は、ロシア、コーカサス山脈のプリールブルスエ (Prielbrusye) に立地する。岩石の 3,500m の地底に、太陽ニュートリノ検出用のガリウム-ゲルマニウムニュートリノ望遠鏡 (GGNT) を持つ地下研究所が、また 100、600、および 4800 m の深さに (山脈の地下 3,670m) 低バックグラウンド研究所を配置している。

<http://www.inr.ac.ru/TNR/Baksan.html>

*GALLEX 検出器は、グランサッソ (Gran Sasso) 地下研究所 (LNGS) に設置されている。平均 1,400m の厚さの岩石に覆われ、宇宙線フラックスを 100 分の 1 の率で減少させる。この約 3,300 メートルの層の水に等しい岩石で遮蔽された地下施設は、ローマの約 150km 東のアブルツェーゼ (Abruzzese) 山脈を通るハイウェイトンネルの中間に、イタリアの INFN (Istituto Nazionale di Fisica Nucleare) により建設された。

同研究所では予約に応じて、外部および地下構造のガイド付きツアーを手配している。ガイド付きツアーは無料。

http://www.lngs.infn.it/lngs_infn/index.htm?

[mainRecord=http://www.lngs.infn.it/lngs_infn/contents/lngs_en/public/visiting/](http://www.lngs.infn.it/lngs_infn/contents/lngs_en/public/visiting/)